

# くじゅうタデ原地域の野鳥

タデ原湿原では、ホオアカやセッカなどの草原性の鳥が繁殖し、湿原の南側の三俣山や指山などの森林部では、一年を通してシジュウカラやエナガ、メジロなどが見られます。春から夏にかけては、南からオオルリやキビタキなどの夏鳥が繁殖のために渡来し、冬には、ツグミやルリビタキなどの冬鳥が越冬のために渡ってきます。

白水川などの河川部では、水辺を生活の中心とするキセキレイやカワガラスなどが生息しており、冬にはオシドリが渡ってきます。



ホオアカ

## タデ原湿原及びその周辺の森林にすむ野鳥たちの四季

### 春

標高の低いところで冬越しをしたホオアカやセッカなどは、湿原に戻り、巣作りの準備を始めます。森林部では、シジュウカラやヤマガラ、エナガなどの留鳥が、つがいを作り、巣作りを始めます。南の国からは、キビタキやオオルリなどの夏鳥が渡ってきて、同じように繁殖の準備を始めます。



キビタキ(夏鳥)

### 夏

初夏の頃は、野鳥たちが子育てに忙しい時期です。森林の中で暮らすシジュウカラやエナガなどは樹木の枝先を飛び回り、昆虫の幼虫やクモなどを採ってヒナに運びます。湿原では、ホオアカやセッカなどが草の間を飛び回り、昆虫などを捕らえています。



セッカ(留鳥)

### 秋

繁殖を終えた夏鳥たちは、南の国へ移動を開始します。その年に生まれた若鳥たちも、自分の翼で東南アジアの方まで渡って行きます。この夏鳥にかわって、ミヤマホオジロやルリビタキなどの冬鳥が、越冬のために北国からやってきます。



ルリビタキ(冬鳥)

### 冬

ホオアカやセッカなどの草原の鳥は標高の低い所へ移動して、湿原では鳥の姿が少なくなります。森林部では、越冬のために渡って来たツグミやマヒワなどが木の実を探して飛び回っています。留鳥のシジュウカラやエナガ、ヤマガラなどは、異なった種類の鳥と一緒に群れを作り、林の中を移動しながらエサを探しています。これを「カラの混群」と言います。



ヤマガラ(留鳥)

## タデ原地域で観察される野鳥



ホオジロ(留鳥)

**留鳥**：この地域で繁殖し、一年中見られる鳥です。ホオジロ、ホオアカ、セッカ、モズ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、エナガ、メジロ、アオゲラ、キセキレイ、カルガモなど

**夏鳥**：春に渡ってきて繁殖し、秋には南の国に帰る鳥です。

オオジシギ、キビタキ、オオルリ、クロツグミ、サシバ、ヤブサメ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギスなど

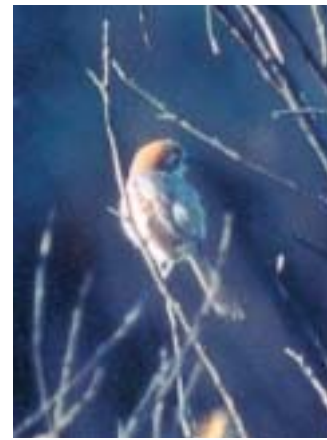
**冬鳥**：秋に渡ってきて冬を越し、春には北の国に帰る鳥です。

ミヤマホオジロ、ルリビタキ、ツグミ、キクイタダキ、アトリ、ハイタカ、オシドリなど

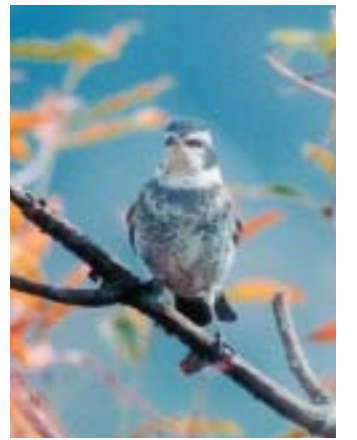
**旅鳥**：北の国で繁殖し、日本より南の国で越冬する為、渡りの途中でこの地域を通過する鳥です。ノビタキ、エゾビタキ、マミチャジナイなど



アオゲラ(留鳥)



モズ(留鳥)



ツグミ(冬鳥)



ゴジュウカラ(留鳥)



イヌワシ(留鳥)

## ホオアカの繁殖地

タデ原湿原では、春から夏にかけて盛んに繁殖活動を行うホオアカが観察されます。ホオアカは、大分県内では春から夏にかけて、この飯田高原や久住、猪の瀬戸、日出生台の高原で繁殖し、冬期には県内各地の平地や海岸部の草地で越冬しています。これらの高原はホオアカの繁殖の南限にあたり、標高の高い草原で繁殖するホオアカにとって、この地域は重要な繁殖地の一つになっています。



ホオアカ(留鳥)